

# がんばろう日本

～亀岡市は平成30年(2018年)7月豪雨災害被災地の復興を支援します～

September 2018  
広報No.665

# キラリ 亀岡

## ■亀岡市の人口と世帯数

	平成30年 8月23日現在	平成29年 8月23日現在
人口	89,277人	89,947人
内訳	男	43,491人
	女	45,786人
世帯数	38,906世帯	38,684世帯

## 主な内容

- 1ページ 今こそ考えよう 防災
- 2ページ 恒久平和のための「1つの世界」～第34回世界連邦日本大会2018 in亀岡～
- 3ページ 東京2020オリンピックに向け、荒賀龍太郎選手を応援しよう!
- 4ページ 桂川市長のまちづくり通信①拡大版 ほか

編集発行:亀岡市長公室秘書広報課 / 〒621-8501 亀岡市安町野々神 8 番地 / ☎0771-22-3131(代) ☎0771-24-5501  
 ホームページ <http://www.city.kameoka.kyoto.jp> 電子メール [office@city.kameoka.lg.jp](mailto:office@city.kameoka.lg.jp) フェイスブック <http://www.facebook.com/kameokacity>  
 LINE@アドレス [line://ti/p/@kameokacity](https://line://ti/p/@kameokacity) ID @kameokacity



# 今こそ考えよう 防災

いつどこで起こるか分からない自然災害。被害を抑えるためには、私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、行動することが大切です。いざという時に備え、今日から対策を始めましょう。

平成30年7月豪雨、その時亀岡は

西日本を中心に、記録的な大雨となった平成30年7月豪雨。亀岡市内においても、各地で爪痕を残しました。7月5日に大規模な土砂崩れが発生した畑野町では、一人の尊い命が犠牲になるなど大きな被害が発生しました。また、西別院町でも土砂崩れによる避難者が出たほか、道路の崩土や陥没など今もなお交通網に大きな影響が及んでいます。一方で、増水が心配された桂川は、河川改修事業による治水機能の向上などもあり、家屋への浸水被害はありませんでした。

## 自分たちのまちは守る

畑野町で発生した土砂災害の際には、地元住民の協力に加えて、消防団の活躍も顕著でした。「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神のもと、平常時から訓練を重ねてきた団員の皆さんが集まりました。このような消防団や自主防災会といった地域に根差した防災組織の存在が、迅速な避難行動やその後の復旧作業を支えています。災害時に身を守るためには、自分の力だけでなく、地域の協力が欠かせません。

## 災害時に備える

自分の住む地域の避難所や土砂災害の危険度を調べることは、災害に備える第一歩です。亀岡市では、ハザードマップを作成し、周知に取り組んでいます。ハザードマップには



①地震②土砂災害のほか、より地域の実情を反映した③地域版の3種類があります。ご家庭



私たち自身も、日ごろから地域のコミュニティーを大切にし、積極的に参加することを通じ、「共助」の気持ちをもつて災害に強いまちづくりを進めましょう。



ハザードマップで危険箇所を把握しましょう。いない場合、市役所で閲覧いただけるほか、②と③については市公式ホームページで公開しています。ぜひ家族で見ながら、災害時の動きを話し合ってください。

## 防災情報をキャッチする

避難行動に役立つ情報を素早く入手するため、次の情報配信サービスにぜひご登録ください。

### 防災情報かめおかメール

メールで緊急情報を配信  
 配信内容:  
 気象情報、地震情報、避難情報、大規模事故情報

### 亀岡市公式ホームページ

ホームページ上で緊急情報を更新  
 配信内容:  
 避難情報、その他災害に関わる情報、被災者支援情報など

### 亀岡市公式 Facebook

SNSを通じ、緊急情報を配信  
 配信内容:  
 避難情報、その他災害に関わる情報

### 亀岡市公式 LINE@

LINEアプリを通じ、緊急情報を配信  
 配信内容:  
 避難情報、その他災害に関わる情報

### 緊急速報メール ※登録不要

亀岡市域にいる人の携帯電話、スマートフォン(緊急速報メール対象機種)に配信  
 配信内容:避難勧告以上の避難情報など



## かつての記憶を受け継ぐために 平和池決壊

昭和26年7月、集中豪雨による増水で、寒谷(現在の篠町寒谷)にあった平和池が決壊。多くの命が失われる、歴史的な災害が起きました。

3月の東日本大震災で決壊した福島県須賀川市のダムの底から見つかった「奇跡のアジサイ」を同市から譲り受けました。同様の災害を経験したまちとしてその記憶を伝えるため、アジサイを通じ、交流を行っています。

奇跡のアジサイ(市役所横)



災害の記憶が教訓となるよう、かつての歴史を知り、学び、受け継いでいきたいと思います。



時を経て、平和池決壊の歴史を語り継ぐ「平和池水害伝承の会」を中心とする市民の皆さんが、平成23年